

「子どもの発育発達を促進するための屋内子ども遊び場－めぐぷらざ－活用方法の検討」
会津大学（沖） × 喜多方市

課題

喜多方市の屋内子ども遊び場「めぐぷらざ」は、東北地方最大級のネット遊具をはじめとするたくさんの遊具を有し、子どもが楽しみながら遊ぶことのできる施設である。この施設を活用することによるメリットが具体的に提示できていない状況が課題である。そこで、この施設を定期的に活用することで、子どもの身体的な発達を促進できるのかを検証する。

調査研究手法

①子ども達の遊具利用の実態調査

ステップアップシートというものを作成した。このシートには、遊具の写真と名称が記載されている。子どもたちは、利用した遊具にシールを貼る。このシールの数が、子どもたちが使用した遊具の回数に値する。

②体組成測定

10月、11月、12月に1回ずつ測定日を設けた。子どもたちの身体的な発達は、この測定の結果をもって示す。

結果・分析

今回の調査の対象となった子どもは、42名（男児：24名 女児：19名）であった。平均年齢は、 7.60 ± 1.24 歳だった。

①子ども達の遊具利用の実態について

子どもたちのステップアップシートから、シールの数を算出した。その結果、遊具の利用回数が最も多かった子どものシールの数は、95枚であった。また、遊具の利用回数が最も少なかった子どものシールの数は、3枚だった。

②体組成測定について

今回は、測定項目の一つである筋肉量スコアに着目する。この筋肉量スコアとは、身長に対してどのくらいの筋肉量があるかを計算し区分したものである。つまり、値が大きいほど身長に対する筋肉量が多いことを示すことになる。シールの数が多い子どもは、シールの数が少ない子供よりも、この筋肉量スコアが高いことがわかった。

全体的な評価

これらの結果から、より多くの遊具を活用することにより、筋肉量の増加や肥満の予防が期待できる可能性があることがわかった。

提言施策

「めぐぷらざ」は、脚部の筋を動かす遊具が多く存在する。子どもたちが、好んで利用する遊具も腕部よりも脚部の筋を動かす遊具である。そこで、「めぐぷらざ」がアピールポイントとしている東北最大のネット遊具をはじめとする腕部の筋を動かす遊具の活用を促進をはかることを提案する。例えば、受付の待ち時間を利用し、デジタルサイネージを用いて利用回数の少ない遊具やネット遊具等の使い方や使うことによるメリット等を提示することが挙げられる。「めぐぷらざ」に設置してある遊具をフルに活用することで、全身の筋肉量の増加や筋肉量スコアの上昇、肥満予防等子どもの健全な発育発達に役立つ可能性がある。